

白山ふるさと文学賞

第三回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生中学年の部 優秀賞

ぼくのお母さん

蕪城小学校四年

佐々木岳都 ささきやまと

「お母さん、あんまりおこらないで。やさしく言ってくれたほうが、ぼくはちゃんとやるよ。」

ぼくのお母さんは、ぼくが宿題をしない時や、野球のすぶりをしない時、弟や妹とケンカをした時には、すごく大きな声でおこります。ビクツとなるぐらいのいきおいです。

「早く宿題しなさい。」とか、

「どうしてすぶりしないの？試合でヒットを打ちたかったら大切なことだよ。」と、いつも同じセリフを言ってきました。そんな時には、

「今やろうと思つとつたの。お母さんに言われたから、やる気がなくなるから。」

と、ぼくもいつも同じセリフで返します。本当にやろうとしてたのに、お母さんの一言で、やりたくなくなってしまう事があります。おこらないで、やさしく言ってくれば、ぼくは宿題もすぶりも、ちゃんとするのになあ…と思うことがあります。

ぼくが、入っている野球部の練習は、火・木・土・日曜日の一週間に四回の練習があります。そのほとんどの練習を、お母さんは見に来てくれます。平日は朝から仕事に行つて、夜ごはんの用意がおわると、見に来てくれます。日曜日朝早く起きて、ぼくにおにぎりを作って持たせてくれます。そして試合の時には、お父さんや弟や妹と一緒に、遠い野球場まで応えんに来てくれます。

「つかれているだろうな。たまには休みたいたらうな。」

と思うこともあります。そんなお父さんとお母さんは、ぼくがヒットを打つたり、ピッチャーでいいピッチングができると、うれしそうに顔をします。そしたら、ぼくも、すごくうれしくなります。お母さんに、

「すぶりしなさい。」

と言われた時に、ちゃんとやつといてよかったなと、その時には思いません。

ぼくのお母さんは、そうじが大好きです。おもちゃをかた付けなかつ

たり、くつ下やジャンパーをリビングに脱ぎすててみると、

「早くかた付けなさい。」

とど鳴ってきます。いつも家の中をキレイにしておきたくて、毎日そうじをかけたがり、ぞうきんがけをしているので、ぼく達兄弟がよごすとおこります。こんな時にも、

「友達の〇〇君のお母さんだったら、こんなにおこらないだろうな。うらやましいな。」と思つたりします。

本当に、ぼくのお母さんは、「おこりんぼう」です。でも、ぼくは、そんなお母さんが大好きです。

お母さんの好きな所は、ぼくに食べたいメニューを聞いて、夜ごはんに作ってくれる所です。あとは、ぼくの、野球で黒くよごれたユニホームを洗たく板でゴシゴシと力いっぱいこすつて、白いユニホームに洗ってくれる所です。いつもは何にも考えずに、色んな事をしてもらっているけど、

「ありがとう。」

つて気持ちになります。いつもははずかしくて、お母さんに、

「ありがとう。」

の気持ちで、お母さんのお手伝いをしようと思います。

「お母さん、つかれた時や、こまった時は、ぼくに言つてね。ぼくにできる事があつたら、お手伝いするよ。お母さんに言われる前に、宿題やすぶり、野球の日記も書くようにしようかな。弟や妹とケンカもすると思うけど、遊んであげたりもするよ。もし、ぼくが、していなかったら、言つてきてもいいよ。だけど、その時はおこらないで、やさしく言つてね。ぼく、ちゃんとやるからね。」

いつもはやさしいけど、おこるとこわいお父さん。おこりんぼうだけど、たまにやさしいお母さん。ぼくと一緒に遊びたがる弟。最近、ぼくに生意気な言葉づかいをしてくる妹。そして、負けずぎらいなぼく。家の中はすごくうるさいけど、ぼくの家族はとても楽しいです。